

令和5年度

第1回 富山市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 概要

1. 日 時 令和5年5月29日（月）
 午後2時から午後3時40分まで
2. 場 所 Toyama Sakura ビル5階501A会議室
3. 出席者 委員10名（全委員数17名）
 市側7名（福祉保健部次長、福祉政策課長ほか）
4. 概 要

議事に先立ち地域福祉専門分科会について説明を行う。

〈議 事〉

（1）会長互選

富山短期大学名誉教授の宮田伸朗氏が選出される。

（2）副会長指名

宮田会長より、富山市社会福祉協議会長の高城繁氏が指名される。

（3）富山市地域福祉計画の策定について

①地域福祉計画をめぐる制度の概要について

②富山市地域福祉計画の策定について

③地域福祉計画に関する市民意識調査の概要について

①～③について事務局より説明を行う。

5 質疑・意見等要旨

- 委員 現行計画の期間中に新型コロナウイルス感染症等さまざまな問題があったが、現行計画においてあまりうまくいかなかったことは何か。また、他の関連計画と地域福祉計画との位置づけはわかるが、この計画自体はどこまで周知されているのか。住民や事業者にまで周知されているのか。
- 委員 ただいまの質問に関連して、この計画の理念や取り組みは素晴らしいが、一人ひとりの市民がどこまで認知しているかということが大事である。しかし、市の広報や市議会だより、回覧板などを見ている、こういった情報は出てこない。また、資料編を見ると、さまざまな相談員がいるが、まったくわからない。地域での繋がりが希薄化する中で、誰が相談員になっているのかわからないと、相談もできない。もっと周知する方法を考える必要がある。
- 事務局 まずは「我が事」という国・行政の考え方が行き渡っていないというところを反省点として受け止めたい。
各事業がうまくいったかどうかについては、今後、それぞれの分野に関わる各部局・各所属で検討していくことになる。周知という点については、地域共生社会の実現と重層的支援体制整備事業に関して、令和4年度は、関係団体にホームページ等で周知することを心がけてきた。令和5年度は、計画策定にあたって広く市民の方にも届くよう、民生委員等の地域ネットワークの中で情報が伝わる取り組みを検討していきたいと考えている。
- 事務局 重層的支援体制整備事業について、今年度は市民向けのリーフレットを作成し、周知啓発していきたいと考えている。
- 委員 専門でない立場から言うと、それぞれの相談員が誰かということもわからないし、その人数、規模もわからない。一人、二人いてもカバーしきれないだろうから、高齢者にももっと活動してもらうのはどうか。
- 分科会長 誰に相談したらよいかわからないということについて、民生・児童委員の立場から何かご意見はあるか。
- 委員 さまざまいる相談員についてわからないことは、個人情報保護の観点から

当然である。それに比べて民生委員はどこか誰かということが公開されており、人数も富山市では約900人いる。まず民生委員に相談することで、専門分野に繋がっていくことになる。

委員 規模はわかったが、もっと周知する工夫をしてほしい。民生委員は情報が公開されていても、他の相談員等はまったくわからない。

委員 民生委員としては工夫して周知活動をしているが、問題を抱えていない人には興味を持ってもらえない。問題を抱えている人で民生委員を頼っている人は多い。また、他の相談員等は、まったく異なる存在で、身分の保証を誰がしているのかという問題もある。

分科会長 地域差もいろいろあると思うが、自治振興会や町内会において相談員の紹介や周知といったことは行われているか。

委員 各自治振興会には福祉推進員や保健推進員と言われる方はおり、自治振興会として関わりはある。

委員 自治振興会などの団体の上層部の方は知っているかもしれないが、一般の方は知らないのではないかとこのことを言っている。

委員 町内会にもわかる方はいると思うので、何かあれば相談いただくとよい。

委員 市の関係各課がいろいろな委員や相談員、ボランティアを委嘱しており、多種多様となっているため、毎回広報に載せるということは不可能である。ホームページ等で公開されているものもあるが、知りたいと思ったときに、市や福祉施設に聞いてもらうなど、自分からアクションを起こしてもらうほかない。

委員 例えば、困ったときはまず民生委員に言うというような、最初にどうするのかという案内が必要ではないか。また、それを繰り返し情報提供することが必要ではないかと思っている。

委員 何か困りごとがあれば地区の班長や町内会長、あるいは地域にある地区センターに相談すれば的確に繋いでもらえる。

- 分科会長 地域にはたくさんの人材やサポーター等の相談先があり、これらをより可視化してわかりやすくすること、市民一人ひとりがSOSの声を上げやすい環境づくりと周知、議論の中で感じられた地域差の解消、そのための各団体を含めた努力が必要になると思われる。
- 委員 重層的支援体制整備事業の窓口というのは行政サービスセンター単位にあるのか、それとも本庁だけで対応するのか。
- 事務局 行政サービスセンターや地区センター、保健福祉センターなど、どこで相談を受けても、専門外の分野であったとしても、それを福祉政策課を通じて担当課に繋ぐというものであり、特別に窓口を限定していない。
- 委員 私が説明を受けたときには、どこの窓口に行ってもたらい回しにされることなく、ワンストップで対応すると聞いたが、間違いないか。
- 事務局 考え方としてはワンストップを目指しており、できるだけスムーズに繋がるように関係課と連携を取りながら事業を進めている。
- 事務局 ワンストップといえども、相談したところすべてを解決するというものではなく、しかるべき窓口に繋ぐということも含めてのワンストップと捉えていただきたい。
- 委員 現状、分野ごとに相談先があるが、逆にどこに相談すればよいかわからなくなっている。それをたらい回しにしない窓口にするために横の連携を取るのが重層的支援体制整備事業であるが、この横の繋がりをつくるのは難しいことで、まだこれからの話であると思う。
- 委員 今は改革の途中であり、一時的に混乱が生じるのは仕方がないことであるとする。
- 分科会長 どの窓口に行っても解決に向かう努力をしてくれるということなので、そういったものだと理解していただきたい。
- 委員 今は施設から地域移行を目指すことが主流の考え方になってきているが、

成人して児童養護施設を出た方や刑務所から出所した方、障害認定を受けていないいわゆるボーダーラインの方を支える受け皿がない。また、富山市は障害者に対する施策が遅れており、サービス事業所も足りておらず、地域での繋がりや支え合いも希薄であると感じている。当事者やその家族に不安があったときに、地域で支え合える体制や頼りになる窓口があるとよい。

委員 児童養護施設を出た方の自立した生活や刑務所を出所した方の再犯防止のためのフォロー事業は行われているが、うまくいっていない部分もあると感じている。また、長年富山市に住んでいると、昔に比べて障害者施策は充実してきていると感じる。それをさらに充実させていくためには、地域での助け合いや支え合いが必要であり、そのためにどうしたらよいかということを地域福祉計画で示していけばよいと思う。

分科会長 再犯防止に向けては、新たな地域ネットワークの構築に向けた動きも始まっている。こうしたことをさらに進めるための計画づくりなので、アンケートや懇談会等で意見をどんどん出していくことが当事者にとっても重要である。

委員 昨年、保健推進員を務めたが、その中で仕組みや活動を利用されない方が多いことを感じた。サービスを受ける側の意識もあると思うが、保健師もどうすれば人が集まってくれるのか深く考えておられるので、こうしたことも周知できればよいと思った。

分科会長 誰の世話にもならないという方もどうしてもいるが、困った際にはいつでも支えるというメッセージは伝えていかなければならない。行政への不信感は根強いと思われるので、一つずつ解消に向けて取り組むしかないと考えている。

委員 ダブル介護をしなければならなかった際、ケアマネージャーが非常に頼りになった。ボランティアの方にはできる限界がどうしてもあるので、専門家の方に、より専門性を高めていただき、困りごとを抱えた方をより強く支えていただけるとよいと思う。

分科会長 専門人材はまだ不足しているが、専門家志望の若い世代にブレーキが

かかっているという話も聞いている。地域の人材や専門人材の養成に力を入れなければ、せっかくシステムがあっても意味がないので、これも含めて計画の中に示せるとよい。

委員 困っている人の中には、自分から発信できない状況の人もある。そういった方をいかにすくい上げるかが重要である。いわゆるヘルプカードのように個人情報ではなく、交番や地区センター等の緊急時連絡先が書かれたものがあるとよいと思う。また、先日、医療の現場で総合医療という包括的な治療を経験した。こういった体制が今の社会の流れだと本日の資料を見て改めて感じた。

事務局 最後に、本日ご欠席の委員より、この場で発言しなかったメッセージを預かっているため、読み上げさせていただく。

委員 保護観察所では、現在、切れ目のない息の長い支援をめざし、訪問相談支援事業所を設立、相談員・コーディネーターを配置して、富山保護観察所などを核としたネットワークを構築しようとしている。今後とも計画では保護司と他機関との連携強化の強調をお願いしたい。

(事務局より代読)

分科会長 現行計画にも記載されているが、新たに長期的に支援していくという動きができていますので、これらを反映させていただきたい。

15時40分 終了